

種の概要

殻高約2~3mm、殻幅約2.3~3.5mm。殻は微小で一見したところ植物の種子のようである。殻形は若齢個体では扁平で楕円形に近いが、成長するに従い膨らみが強くなり、殻頂部は明瞭で腹縁も前後に広がってくるので、いわゆるハマグリ形になる。殻表には細かく明瞭な成長脈が密に現れるが、黒から赤茶色の沈着物に覆われていることが多い。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			△	○			○

県内分布

川西市、加西市、たつの市、豊岡市、養父市、香美町、新温泉町、洲本市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。兵庫県新温泉町が模式産地。平地から山地にかけての遊水池や水量の豊富な湿地等のほか、人工的な池や小規模な水路や湧水、神社境内にある池、流れの緩やかな水路等さまざまであるが、いずれも底質は腐植物を含んだ砂泥である。小規模な湧水でも確認されていることから、今後の調査でさらに産地の増える可能性がある。

保護上の留意点

今後の調査が進めばさらに生息地が確認されると思われるが、模式産地で見られたように個体群の消滅が容易に起きる種であるため、未確認の場所であっても生息の可能性が考えられる場合は、周辺に於ける造成・整備等の計画の際には事前の調査が望ましい。

